

「県議会への意見」募集結果について

平成23年10月4日
議会事務局政務調査課

秋田県議会では、議会審議等の参考にするため、県民のみなさんから意見を募集しました。募集概要及び結果については次のとおりです。

1 募集概要について

- ・ 募集テーマ 「東日本大震災からの復興と県の防災対策について」
- ・ 募集期間 平成23年8月17日から9月16日まで（1か月間）

2 募集結果について

(1) 応募者数 10人（男性8人、女性2人）

	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性		2	3	2	1	8
女性	1		1			2
計	1	2	4	2	1	10

(2) 主な意見

①被災者支援

- ・ 避難者に対する経費面の支援
- ・ 復興支援の財源確保
- ・ 派遣人材の登録制による確保と派遣システムの構築
- ・ 被災者の神事への無料招待

②津波対策

- ・ 津波到達地域マップの作成
- ・ 海岸からの距離と海拔の表示
- ・ 高層避難施設と防潮堤の整備

③避難所の整備

- ・ 集合住宅の空き部屋等の把握
- ・ 断熱性を考慮した体育館の設置
- ・ 避難場所の確保

④防災訓練と教育

- ・ 普段からの年齢に応じた訓練
- ・ 救助人員の確保と教育訓練
- ・ 応急手当や搬送など救急技術等の習得向上

⑤生活物資の確保

- ・ ガソリンなど生活物資の確保
- ・ 非常用品の常備
- ・ 高速道路など流通経路の整備

⑥その他

- ・ 広範囲な被災を考慮した計画
- ・ 被災時における海上交通の活用

4 意見の概要

居住地	年代	性別	意見
秋田市	30代	女性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段から年齢に応じた訓練をする。 ・ 災害時に備え非常用品を常備させる。 ・ あらゆる地域から避難してくることを想定して避難場所を確保する。 ・ 広範囲に被災した場合を考慮した計画を立てる。 ・ 救助人員の確保と教育訓練を実施する。
由利本荘市	40代	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資の輸送に欠かせない県境などの高速道路を整備する。 ・ 断熱性を考慮した寒さに強い体育館を造る。 ・ 津波到達地域マップの作成と避難場所を見直す。 ・ 津波到達予想地域では、電柱へ海岸からの距離と海拔を表示する。
鹿角市	50代	男性	<p>1 被災者の救急支援について</p> <p>(1) 医者不足の本県が被災した際に、救援されるまで持ちこたえるためには、AEDの普及だけでは不十分である。県民に心肺蘇生法だけでなく、応急手当や搬送なども含めた救急法の習得を向上させる。</p> <p>(2) 避難場所として想定される学校などに勤務している職員に、救急技術の講習を行う。</p> <p>2 学力の高い本県児童に「地域や人を助けるために」被災した際、何が必要か体験する機会を設ける。</p>

八郎潟町	60代	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の震災で、本県ではガソリン、灯油などの物流ストップによる間接被害が大きく生活に困窮を来した。 ・県では防災計画を作成し訓練も積んでいるはずなのに、知事をはじめとしたリーダーからの力強い呼びかけもなく、物資の供給に対して疑心がついた。 ・対策の第一歩は県民の生命、財産を守るため場合に応じたシナリオを幾通りも作成し、災害が発生したら直ちに実施するようにしておくべきである。 ・県は当初から避難者に対して避難先の斡旋だけでなく、経費面の支援も行うべきである。 ・物流コストの面からも、秋田港をはじめとした海上交通の活用を重視すべきである。 ・タンクローリーや貯油タンクの合理化あるいは地域的偏在が今回のガソリン、灯油の欠乏に繋がったと考えられ、防災対策には無駄と思われる施設も必要である。
秋田市	50代	男性	<ol style="list-style-type: none"> 1 震災復興支援の財源確保のため、通常の間予算を再度吟味し、「スクラップアンドビルド」を徹底する。 国難に際しては復興支援に充てるため議会または財政課サイドから強力に「スクラップ」の視点で指示を出すべきである。 2 今後の災害派遣は、現地の状況を良く把握しているNPO等から本当の情報を集め、被災地の要望に応じた人材を派遣するシステムを構築する。 3 本県の防災対策については、近隣自治体と詳細な相互協力・支援協定を締結しておく。 災害派遣をする際は、一般の公務員派遣でなく、資質、資格を持った人材を登録制にして、あらかじめ確保しておく。

秋田市	70代	男性	<p>東日本大震災では体験者が「寄せる波より引き波のほうがはるかに恐ろしかった」と語っていることから、津波対策を充実してほしい。</p> <p>津波対策には防潮堤などのハード面もあるが、今回の震災ではあまり役に立たなかったこともあり、防災意識を高めるソフト面の重要性を痛感した。</p>
能代市	50代	女性	<p>被災地では多くの新婚カップルが挙式をあきらめているそうだが、県議会の力添えで能代市日吉神社の神事である「嫁見まつり」にカップルを無料で招待してはどうか。</p> <p>このような時だからこそ、若いカップルがこれからの被災地を支えていくためにも、新しい門出を祝福してあげることが復興に繋がると思う。</p>
潟上市	50代	男性	<p>東日本大震災の大津波以上の高台が皆無の県内沿岸平野部（例えば男鹿市船越、潟上市天王、秋田市土崎など）に、高さ21.8m、約500人収容可能な高層避難施設（三重県大紀町の錦タワー以上の施設）と高さ15.5mの防潮堤（岩手県晋代村大田名部の防潮堤以上）の設置を県の地域防災計画に盛り込み早急に建設することを明文化してもらいたい。</p> <p>また、県が主導して市町村にも同様の指導をしてもらいたい。</p>
由利本荘市	40代	男性	<p>避難所の選定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所には、ある程度の機能が備わっている必要があり、夏・冬のことを考えると冷暖房は完備しておくべきと思う。 ・災害範囲が広いと行政の手が届かない避難所が必ず出てくるが、避難所だけで1日～2日耐えられる体制が理想である。 ・大規模災害時には物資の確保のために、スーパーやコンビニと協定を結んでおく必要もある。

大仙市	60代	男性	<p>1 被災地に秋田の竿燈など東北地方のお祭りが出向いて、少しでも元気を与えられたらと思う。</p> <p>2 仮設住宅はすぐに対応できないので、県、市、民間の集合住宅の空き部屋等を常に把握しておき、災害時にすぐ対応できるようにしておく必要がある。</p>
-----	-----	----	---

※一部表記を訂正しました（平成23年11月11日）